

嗜好色とパーソナリティ特性との関係 ー色のイメージと向性ー

Relationship between Personality and Color Preference - The Image of Colors and Extroversion -

松田 博子 Hiroko Matsuda
名取 和幸 Kazuyuki Natori
破田野 智美 Tomomi Hatano

カラーコンサルタントスタジオ
日本色彩研究所
立命館大学

Color Consultant Studio
Japan Color Research Institute
Ritsumeikan University

キーワード：色彩嗜好，性格，トーン，色相，色のイメージ，大学生

Keywords: color preference, personality, tone, hue, image of colors, university student

1. はじめに

11年間にわたり大学生 2023 名を対象に色彩好悪調査と YG 性格検査を実施した。この調査結果に基づき、本報告を含む一連の研究では嗜好色と性格特性の関係に検討を加える。

昨年は彩度やトーンの嗜好と性格に関係があることを指摘した(松田・名取・破田野, 2012)。本年度は、性格の因子のうち、向性(外向, 内向)の側面に焦点を当て、好まれる色と対象者の向性との関係を明らかにすることを目的に検討した。なお、向性に関わる指標としては 12 の YG 性格特性のうち、5 因子(Big Five)の外向性因子に分類される Ag, G, R, A, S(山本・清水, 2010)の得点を用いた。結果から、外向的な人がどのような色を好むかの傾向が明らかになる。

もう一つの目的は、向性と好まれる色のイメージとの関係を解明することにある。色に対するいくつかの形容語尺度による SD 法調査データ(日本色彩研究所, 2008)を用いて、好まれた色のイメージと回答者の向性との関係を求める。

2. 方法

2.1. 調査対象者

京都または大阪近郊の大学生 2023 名(男性 928 名, 女性 1095 名; 18 歳から 23 歳, 平均 19.5 歳)。

2.2. 実施時期

季節の影響を考慮し、調査は 2001 から 2011 年の 6 月に限定して実施した。

2.3. 調査場所

調査は対象者の在学する京都または大阪の大学の講義室で行った。机上面照度は 650 ルクス以上であった。

2.4. カラーチャートと嗜好色調査

10 色相×7 トーンの有彩色 70 色と、無彩色 5 色の計 75 色(1.4×2.3cm)を A4 判の用紙に CG プリントした。各色は PCCS 色彩体系から選出し、用紙の左から右に赤・橙・黄・黄緑・緑・青緑・

青・青紫・紫・赤紫の 10 色相を、上から下にペール、ライトグレイッシュ、ダル、ライト、ビビッド、ディープ、ダークの 7 トーンを配し、最下段には無彩色のホワイト、ライトグレイ、グレイ、ダークグレイ、ブラックの 5 色を配した(表 1 参照)。背景色は明度 N7.8 のグレイとした。

複数問からなる色彩好悪調査の一環として、対象者には上記カラーチャートから好きな色を 3 つ選ぶよう求めた。

2.5. 性格テスト

YG 性格検査(矢田部ギルフォード性格テスト)の一般用を強制速度法、集団試行法で実施した。

3. 結果と考察

3.1. 嗜好色と向性

色ごとに対象者を選択者・非選択者(2)×男性・女性(2)の 4 条件に区分し、向性因子(山本・清水, 2010)の各平均得点を比較した結果、色を好むか否かによって差が認められた。以下では上記の 2 要因の分散分析の結果、選択者と非選択者の間に 5%水準で有意差が認められた条件についてのみ報告する(表 1)。

ビビッドトーンの赤を好む人は好まない人に比べ向性に関わるすべての得点が高かった。この色は本調査の対象者のうち男性 19.2%(171 名)、女性 7.6%(83 名)に選択され、情熱的で強い色とされる。この色を好む人は外向的であると考えられる。

またペールトーンの青を好む人は向性に関わるすべての得点が低かった。この色は男性 9.1%(84 名)、女性 8%(88 名)に選ばれ、理知的・弱い・静的な色である。この色を好む人は内向的と考えられる。

総じて暖色を好む人は向性の得点が高く、寒色を好む人は得点が低い傾向にある。中性色については、寒色に近い緑は、ビビッド以外のトーンでは内向的な傾向を示し、暖色系に近い赤紫は、外向的な傾向を示した。またトーンについて言えば、ペールトーンを好む人は向性の得点が低く、ビビッドトーンを好む人は寒色の青緑を除いて向性の得点が高かった。これは暖色と寒色で色のイメージが対照的であると同時に、優しいソフトなイ

表1. 嗜好色によるYG性格検査の粗点の違い(N = 2023; 男性928, 女性1095)。好きな色として各色を選択した人の得点が選択しなかった人に比して有意に高い尺度を太字で, 低い尺度を斜体で示した ($p < .05$, $*p < .01$)。

トーン	色相									
	赤	橙	黄	黄緑	緑	青緑	青	青紫	紫	赤紫
ペール			<i>A</i>		<i>S</i>	<i>R</i>	<i>Ag G R* A S*</i>		<i>Ag</i>	
ライトグレイッシュ			<i>Ag G A</i>				<i>S*</i>			
ダル					<i>R</i>				<i>A*</i>	
ライト									<i>S</i>	<i>G S</i>
ビビッド	<i>Ag* G R* A* S*</i>	<i>G*</i>	<i>Ag R* S</i>		<i>R</i>	<i>R</i>				
ディープ					<i>Ag S</i>		<i>S*</i>		<i>Ag</i>	<i>A* S*</i>
ダーク	暖色		<i>Ag</i>			<i>A*</i>	寒色			
無彩色			<i>S</i>							
	ホワイト	ライトグレイ	グレイ	ダークグレイ	ブラック	Ag:攻撃的 G:一般活動的 R:のんかさ(衝動的・気軽) A:支配性 S:社会的外向				

メージのペールトーンと、派手で活動的なビビッドトーンのイメージの違いが起因すると考えられる。

尺度別に向性をみてみると、同じ色相を好む人であっても好む色のトーンによって向性は異なる。寒色の青の場合には、ペール、ライトグレイッシュ、ディープトーンのいずれを好む人も社会的外向を示す *S* 得点が低く、青の対照色相である黄の場合には、ライトグレイッシュ、ビビッド、ダークトーンのいずれを好む人も攻撃性を示す *Ag* 得点が高い。また緑の場合はビビッドトーンを好む人は衝動性や気軽さを示す *R* 得点が高く、ダルトーンを好む人は同得点が低い。さらに紫の場合はディープトーンを好む人は *Ag* 得点が高く、ペールトーンを好む人は同得点が低かった。

同じトーンを好む人であっても好む色の色相によって向性が異なる。ビビッドトーンにおいては赤、黄、緑を好む人は *R* 得点が高いが、青緑を好む人は同得点が低い。またディープトーンでは紫を好む人は *Ag* 得点が高いが、緑を好む人は同得点が低い。

3.2. 好まれる色のイメージと向性

YG 性格検査のうち向性因子について、男女の別に各色の選択者の粗点の平均値を求め、当該の色の 16 の形容語評定尺度によるイメージ得点との相関を求めた。この際、双方の調査で近似した 49 色を対象とした。以下では 5%水準で相関が有意であったものについて述べる。

色に対する「派手・動的」のイメージ得点と、各色を選択した女性の *S* 得点の間には正の相関が認められた (順に $r = 0.51, 0.42$)。 *S* 得点は社会的外向を示すため、派手・動的な色を好む女性は、外向的であると考えられる。この他女性の場合に

は、「明るい・陽気・澄んだ・きれい・情熱的・暖かい」と *S* 得点 ($r = 0.34, 0.39, 0.32, 0.36, 0.34, 0.29$)、「派手・きれい・情熱的・動的」と衝動性・気軽さを示す *R* 得点 ($r = 0.36, 0.28, 0.28, 0.29$) の間に弱い正の相関がみられた。

男性の場合には、「かたい・強い」のイメージ得点と *A* 得点の間に弱い負の相関が認められた (ともに $r = -0.28$)。また「大人」のイメージ得点と攻撃性を示す男性の *Ag* 得点の間にも弱い正の相関がみられた ($r = 0.29$)。

以上の結果は、好まれる色のイメージによって各人の向性が異なる可能性を示唆している。換言すれば向性によって好む色が左右されるのかもしれない。男性の傾向を単純に述べることは難しいが、予想に反さず外向的な女性は派手な色や動的な色を好む傾向にある。

3.3. まとめ

好む色によって向性に違いが認められた。色相のイメージやトーンのイメージとよく似た性格の人が好む傾向が示唆された。向性によってイメージの合致する色を好むのであろう。

今後は嗜好色と Big Five の情動性に対応する YG 性格検査の得点 (山本・清水, 2010)、嫌悪色や服の色など色彩好悪調査の他設問と性格特性との関係について順次報告したい。

引用文献

- 松田博子・名取和幸・破田野智美 (2012). 11 年間の経年調査にみる色の好みとパーソナリティとの関係：トーンと彩度の嗜好傾向について 日本色彩学会第 43 回全国大会要旨集, 160-161.
- 山本理恵・清水和秋 (2010). Big Five と YG 性格検査の関係性の探索—Big Five 形容詞短縮版と YG のジョイント因子分析から— 日本心理学会第 74 回大会発表論文集, 61.
- 日本色彩研究所 (2008). 新編カラーレンジマニュアル 100.